

「里親ツアー」 参加者感動の 土産ばなし

「第1回里親ツアー」参加者は18名。そのうち更埴国際交流協会のハビタット事業、千曲市市議会議員研修の参加者と共同ツアーとなりました。もちろん18名全員が里親かまたは協力会員として参加していただきました。

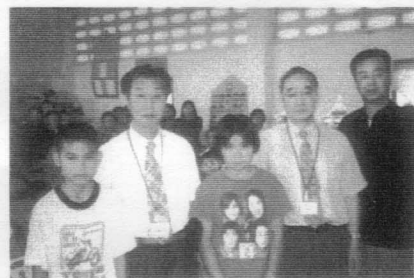
参加者の中から3名の方に感想文を寄せていただきました。久保さんは現在千曲市立屋代中学の校長先生です。「里親ツアー」には3日間だけの参加となりました。4月30日にはチェンマイ市長が屋代中学を訪問し、生徒と交流することとなりました。

轟さんは千曲市から、松本さんは軽井沢からの参加となりました。

素晴らしい心のこもった文章に、理事一同大変感激しました。ご多忙の中、協力いただきました3名に厚くお礼申し上げます。

ドークカムターイ学校訪問 「人としての生き方を学ぶ」

●久保 勝義●



同行した里親柳沢さん、里子達と向かって左がウオーラウットくん、その隣が久保さんご本人。◀

【感動 その一】

日本では厳冬期の2月なのに、南国の心地よい風が流れ込む教室での初発感動。

30~40人いるだろうか、どの子の目も輝き、純朴な顔に活気が滲み出ている。どの子も真新しいシャツではないが、洗濯がなされ清楚である。どの子も両手を合わせて(合掌)の挨拶で感謝の気持ちを表す。形式的ではない。心がこもっている。私の里子である小6のウォーラウット・パンヤー君も同じ、目が澄んだ賢そうな子である。

教室の後ろに並ぶ大人は、子どもの後見人か保護者であろう。その男性も女性も和眼で、笑顔が美しい。私たち3人への好奇心はあるだろうが、愛想の笑顔ではない。よく訪問してくれたという気持ちが入った笑顔である。信頼感を寄せた清純な目である。そのことに感動する。

多分、信頼感と一緒に同行してくださった相談理事役である春日賢さんの当校への環境整備・フェンス設置・里親などの長年のボランティアによる実績であろう。

【感動 その二】

現地ドライバーによる自家用車で、チェンマイのホテルを、事情により予定出発時刻より1時間遅れの8:00に出発。パヤオは遠い。料金無料の高速道路、バナナやヤシ林・常緑樹が生える山道、田植えが終えた田園道路をスピードを上げて走ること3時間半。時間を取り戻せず、予定より1時間遅れて、ドークカムターイ学校に到着。

日本ならさしずめ1時間も遅れば、待ちくたびれた顔や不満な顔をする子どもがいるものだが、誰一人そういう顔をしていない。大人も同じである。子どもも大人もおおらかで、許容心が育っている。

また、小学生なら待ち人が来るまで、自分の席を離れたり遊んでいたりするものだが、そういう気配が感じ取れない。それは、私共が車を停めた場所から、会場となっている2階の教室はよく見えだし、急ぎ足で会場に向いたので待っている様子がよく分かる。慌てて席に着く気配とかは、長年の経験から分かるものだが、そういう様子は微塵も感じ取れない。来客を待つ心のゆとりというか、待ち方や時間の過ごし方を心得ていることに感心する。

【感動 その三】

3人の訪問挨拶、わが子が社会人となり今では不要となっている学用品のプレゼント、里子との対面、学校長・里子の代表者・保護者のお礼の言葉などの訪問歓迎式が終わった後、学校の教室や設備を見せていただく。

その最中、トイレが必要になり、トイレの場所を学校長にたずねる。プーゲンピリアの花咲く、校舎から離れた外にある小さなトイレ小屋に向かう。

トイレ前にある水道の流し場で、最高学年と思われる女子二人に出会う。その女子はデッキブラシやバケツを洗っている。私たちと目が合うと、手を止め笑顔で合掌の挨拶をし、さりげなく立ち去る。

トイレに入って驚く。タイ式のトイレのコンクリート床に水が打たれ、その水がきれいに拭き取られている。便器もきれいである。日本のような近代的なトイレではないが、室内に清潔感が漂っている。

「今、出会ったあの女子が清掃してくれたのだ」と、入った瞬間直感する。また、凹凸のあるコンクリート床に水を打てば、水は溜まるものだが溜まっていない。隅々まできれいになっていることに驚く。感動のトイレ。

トイレから出て、感謝の意を述べたかったが、もう女子は見当たらなかった。名も知らないのに、二度と再会が難しいであろう。気持ちよくトイレを使っただろうという心遣い、さりげない立ち去り方のことは、これからも私の心から消え去らないだろう。

帰国した今でも、不思議に思っていることがある。あの女子は清掃を指示されてやったのかということである。もう一点は、学校側の素早い意志伝達方法である。

というのは、私たちがトイレの場所をたずねてから、5分も費やさないうでトイレに向かった。その時、狭いトイレと言えども、既に清掃は完了していたからである。指示によるものならば、どのように指示を出し、短時間によくぞきれいに清掃できたものと思う。

指示されての清掃は不可能であろう。私たちは歓迎式や学校見学で2時間以上費やしていた。「あの女子はトイレを気持ちよく使っただろうという歓待の心で自主的な清掃をしたのだ」と日に日に思いが強まる。実に、私の心が洗われ、暖かい気持ちになれた訪問であり、人としての崇高な生き方を学ぶ旅であった。子どもたちに幸あれ。